繪本甲越軍記 二

へ遠13
2214
2

遠へ13
門
帙 2214
巻 2

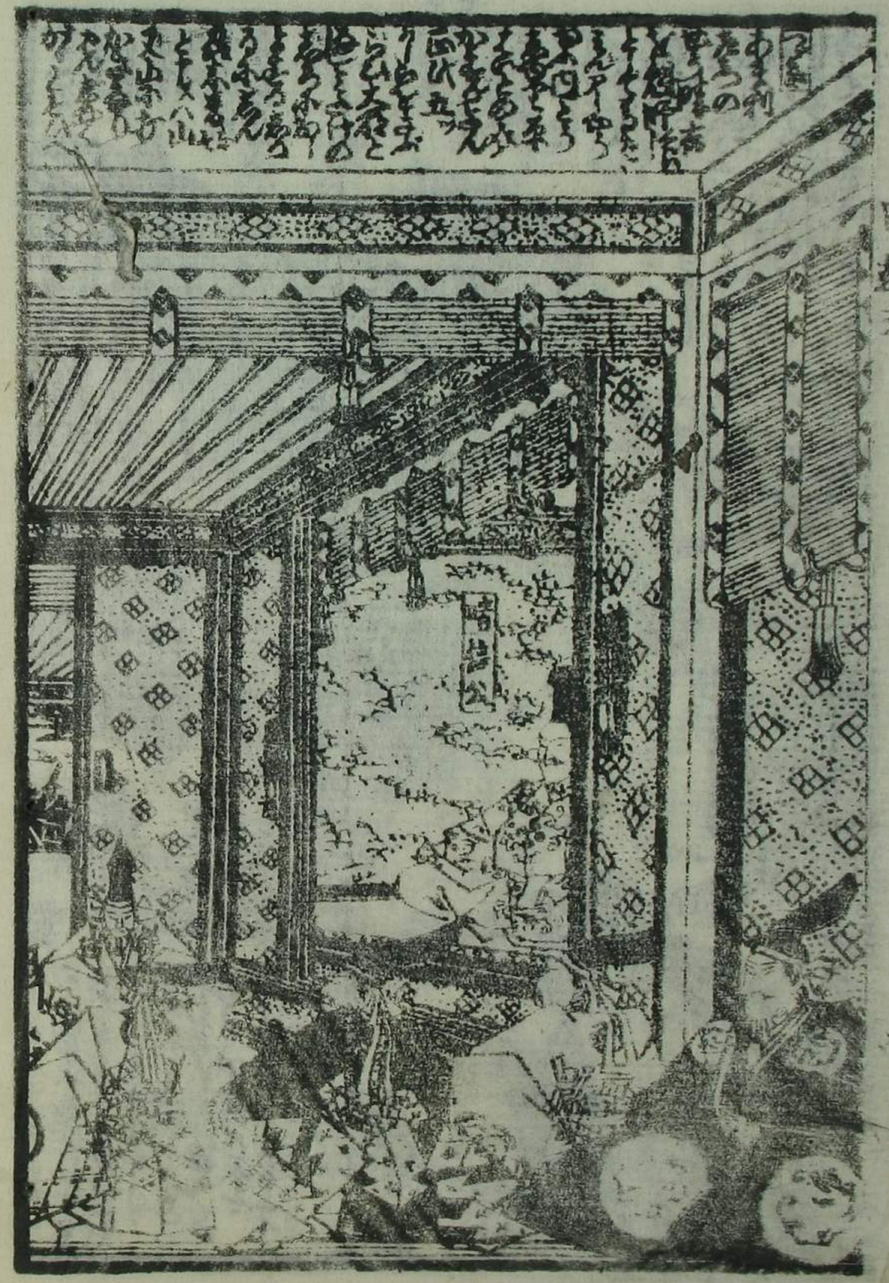
長尾景虎公
甘利左衛門尉

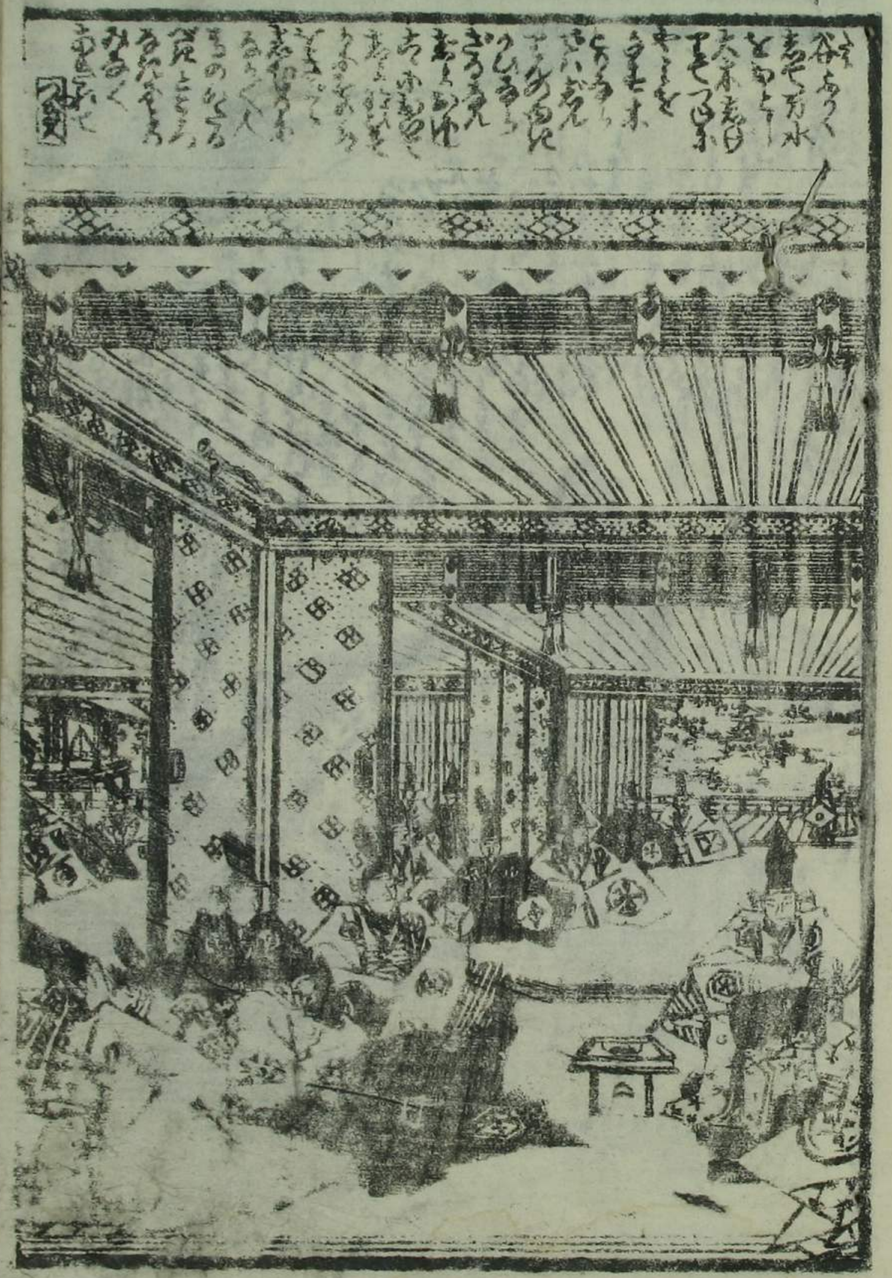
村上義清

○景勝公の先鋒
○晴信公の前隊

山本勘助晴幸

四
覺十兵衛





武田太郎義信

木曽家臣
木曽義仲
武田晴信公
南無誠訪大明神

玉蘭齋千人譯
五雲亭貞秀画

柳長尾家の先祖八桓武天皇より出て村岡五郎良兼の末葉なり良兼より六世の孫なり大郎景明と号す景明の三男次郎景弘

長尾と改称一世を上杉家の老臣となる景弘の子高景

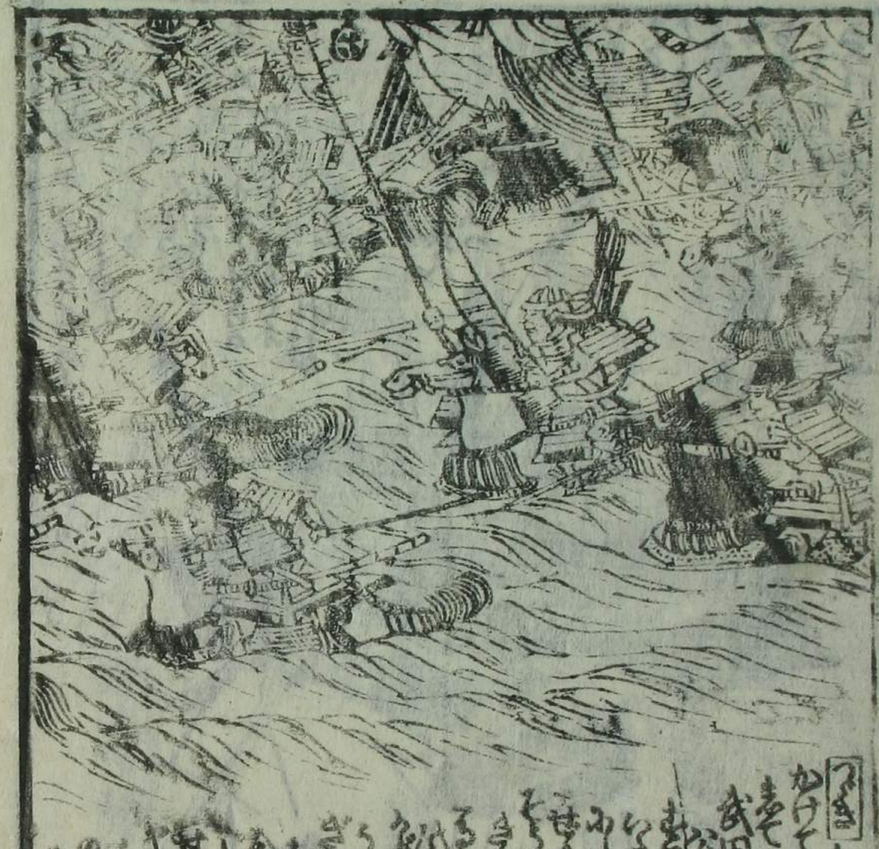
子重景の子能景その子長尾景景これ謙信の父

絵本甲越軍記第四編惣目録

上杉謙信公西條山に陣城を築く同事
謙信公諸国を巡て敵の粮道を断切の事
越後勢乏粮の道を失ひ力を落す事
真田藤助勇者山に悲と入る事同断
謙信公粮道を求めらるる事同事
後代の世と雖も同事
信玄公より四山中と長尾軍議の事同事
山中勢の事
一騎駆け山中の分と小配の事
武田勢八十騎陣ふれの事 其一 其二

信玄公諸軍と西條山へ向い給ふる事
甲州の武士浅野孫六殿の事 同景 其二
孫信公川中島出張の事 同景
山本軍兵衛遠藤東忍斬の事
陸奥公源汁車斬老武田勝頼殺給ふる事 同景
武田信繁討死の事 同図
備前豊後守馬場討死の事 同景
阪屋三弁之場の事 同景
山伏豊守勇猛の事 同景
山本勘助入道西蔵討死の事 同図
和泉北原入弁討死の事 同図
信玄公小海の話と国の治る事
第六番 恵用次法

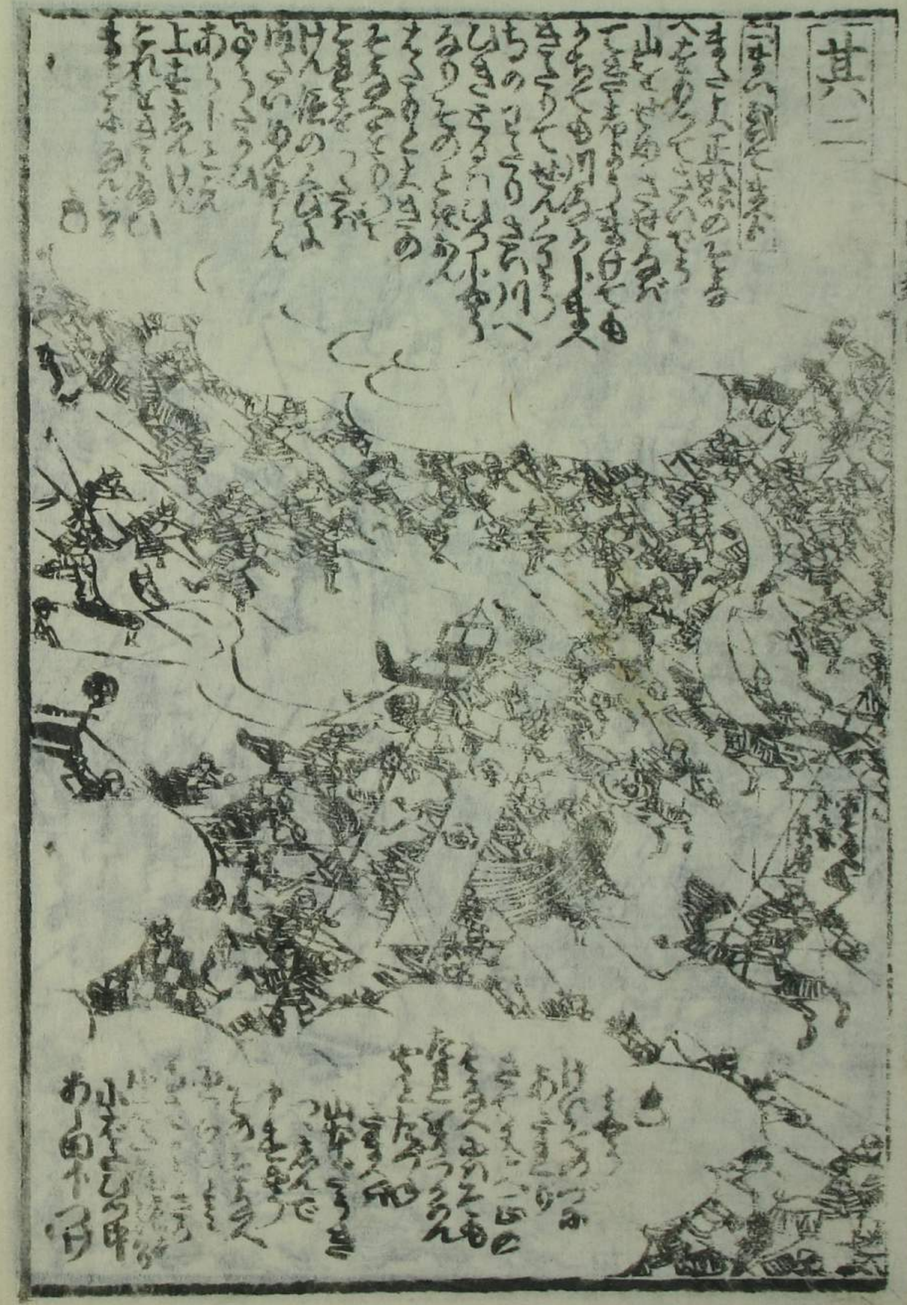
諏訪の
西条山の
陣城を



武田信玄公
真田一德斎

山本晴幸入道

武田家門中ばま
せいをうのよる



山本勘助
武田善次

初服源五郎

諸角豊後守昌清

元山伊豆守

玉蘭齋輯

貞秀画

繪本甲越軍記第五編 惣目録

上杉輝虎入道謙信横勇の図
謙信、謙安田の組を破る図
謙信公自信を公へ知らせの事 図
謙信公原大間寺を攻る図
鬼小島弥太郎東勇戦若と越山の図
西條山へ向ひ軍勢ハ不の図
真田昌幸、謙信を川と陣ひの図
直江山城守小荒頭と戦ひ武田勢と防ぐの図
同其図
真田父子、敵後勢の小義姫と切勇ひの図

山本勘助
道鬼
鼓鼓
の音

山本道見

その三

晴幸人道

四

山本勘介晴信

つるぎ八てにさゝう八めんふきり
たつるぎ三ぎ三ぎ三ぎ三ぎ三ぎふ
あと八人の目をあどろ〳〵ける
されがあうでうが大ぐえとたち
まちふきり〳〵ぐ〳〵いきあひ
いよく〳〵さええり〳〵これをろろう
さるがこひろ世ふあひつめられる
あと八人今もく来えあとへやさ
こびのえあひどうそそりうスー
多ちと世ハの来れ出まうのも
らと火ろうふろりてたうそう
山のとこへふうでうときり
ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
山ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
よ入ふきり
かるこ山をうえハ
こうふ作しばり
ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
つるぎ八

鬼小島弥太郎

上杉謙信公

上杉弥五郎

三

謙信公

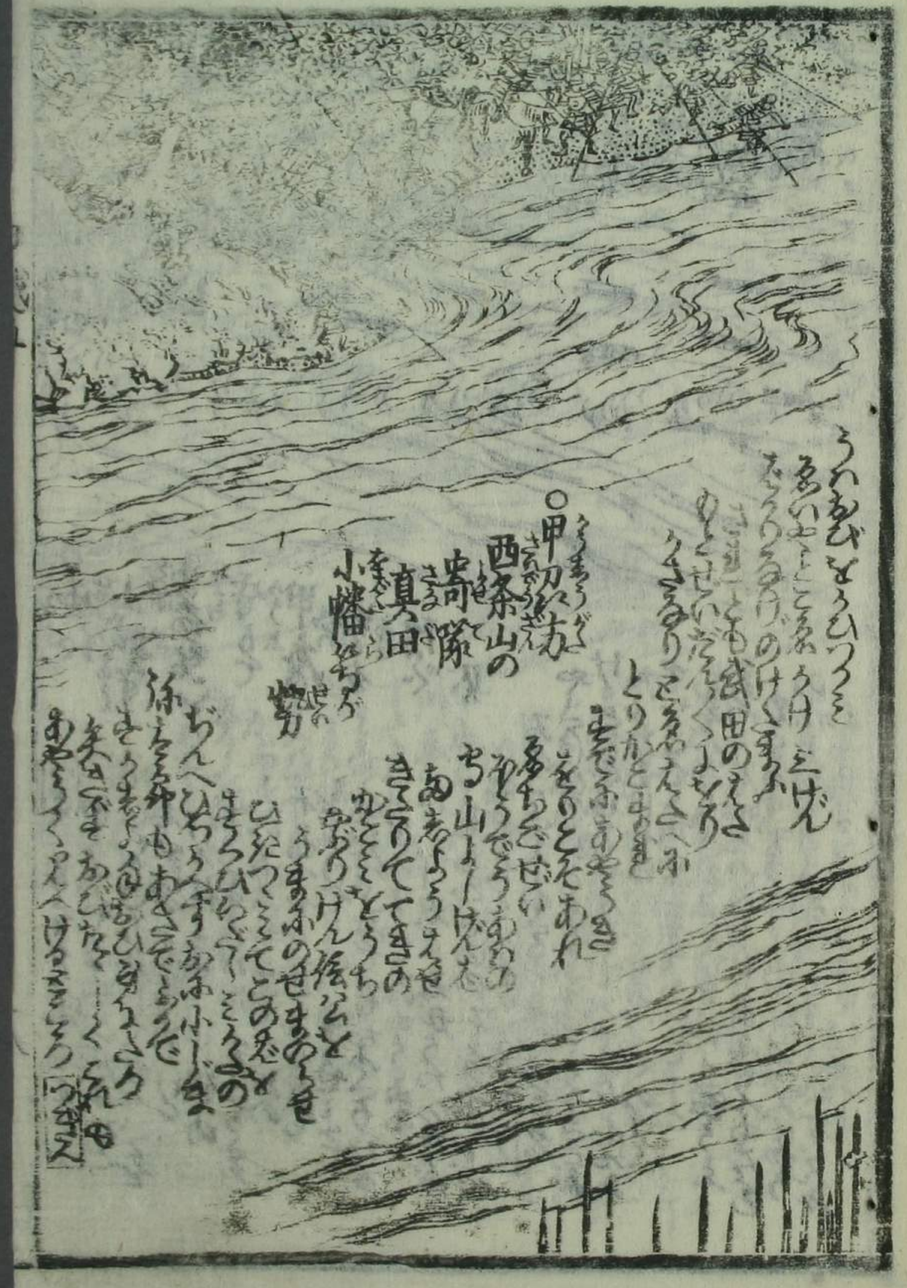
○甲州勢
水軍の図
疾如風徐如林侵
掠如火不動如山
南無諏方南宮法性上下大明

甲斐五
信玄公

謙信公
川中島
謙信
信玄
国

謙信公
原大隅守

鬼小嶋弥太郎



○山城守
山城守
○小篠
小篠
○甲斐守
甲斐守
○勢州
勢州
○防ぐ
防ぐ

つぎき　のとてろ　ほうぐ　ほうー　やうれいつとふかと
ゆうー　やうれいつとふかと
こんとさり　ふけてみち　こを
ものそひて　ちまさ　ちり
けり　ほう　ものく　ものの
ごとくなるまば　田　ものく　ものの
大のかきもえて　ものの
そなへを　ものを　ざるうち
ものうけて　ものうち　ものを　ものて
ひたぐきて　ものて　ものける
○まくふかまこさふて　ものう　出ず
ものう　ものよ　ものもう　ものの
ものもと　ものの　ものて　ものの
ものうまて　ものて　ものの
ものの　ものて　ものの
ものの　ものて　ものの
ものの

真田昌幸

真田一揆ハ
昌幸

玉蘭齋輯

貞秀画

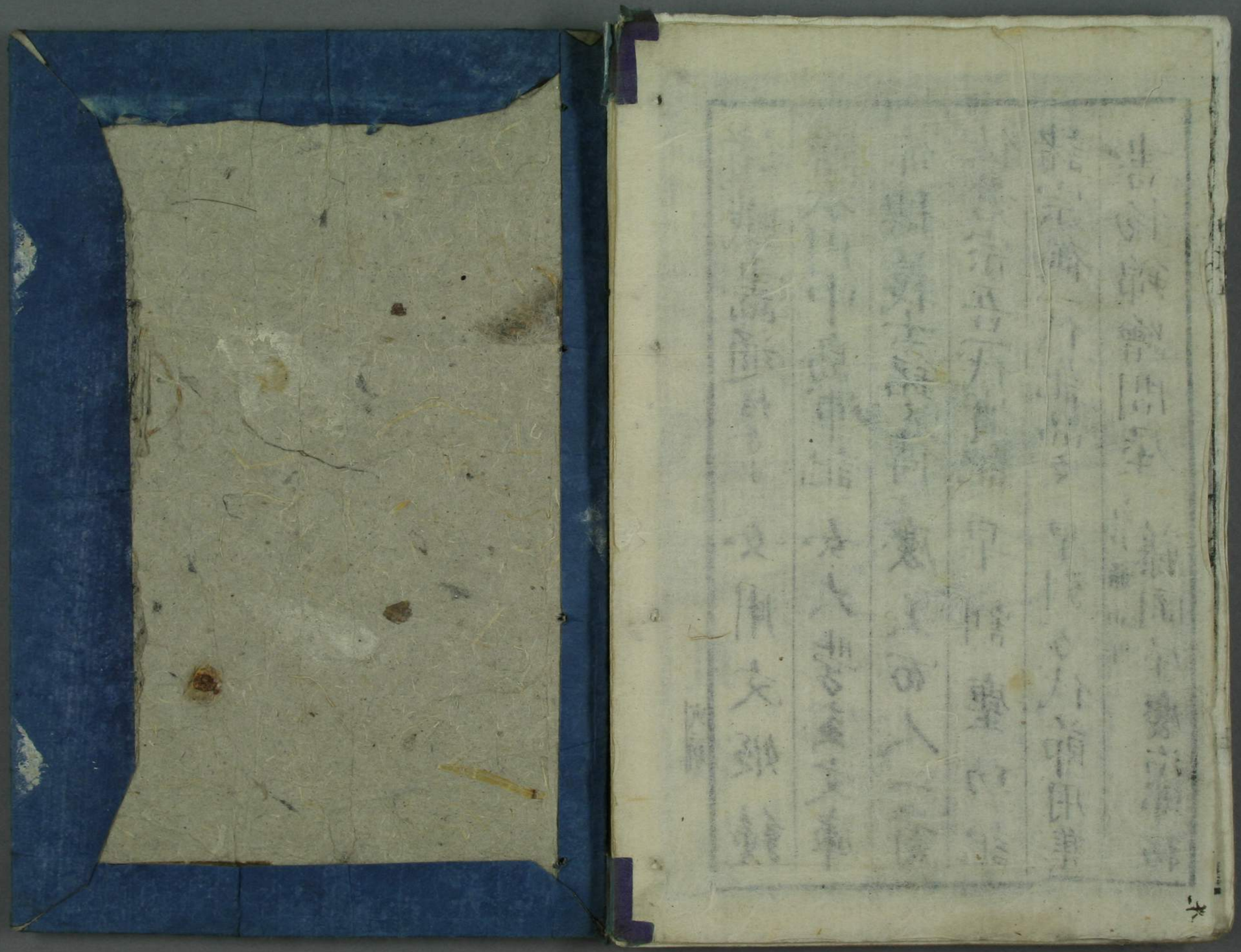
寅二月

諸職畫通 繪手本 女用文姫鏡

繪本川中島軍記 女大學寶文庫

赤穗義士銘々傳 慶玉百人一首

佐倉宗吾一代實記 早割塵功記

諸宗御一代記品々 早引方代節用集

書物錦繪問屋 江戸通油町 藤岡屋慶治郎 板